

ふるさと大好き本荘っ子の育成

あわら市 本荘小学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3回
中学校区を単位とした協議会	0回
地域及び家庭への学校公開	8回(のべ) 8日

(2) 地域人材の活用(のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	15人
授業ボランティア(含:低ボラ)	1人
登下校支援ボランティア	34人
その他()	人

(3) 特色ある活動

テーマ「ふるさと教育」

具体的活動内容

題材「本荘のために尽くした人」

目的 郷土の自然や人物のすばらしさに共感し、地域に関わろうとする態度を育成する。
あわら市が道徳教育実践研究事業の指定を受け、本校でも地域や人とつながることの大切さを考える指導を行っている。「郷土愛」を育てるために、地域の題材の掘り起こしを検討している時、地域学校協議会で本校東側の「春日の森」を再生する取り組みをすること、地域や教育の発展のために尽くした先達が多数いることが紹介された。これを一つの契機として、道徳だけでなく教科の面でも、地域に関する学習を取り扱うことの多い3年生を中心に取り組んでいった。

5月 学校近くの地区探検により、郷土の良さを考える。

- ・春日の森の美しさやそのはたらき
- ・地区にある石碑や文化財の確認

6月 グループごとに取り組むテーマを決める。

- ・春日の森の再生に取り組む人たち
- ・本荘小学校や地域の教育に貢献した人物

9月～10月 グループごとに調べ、まとめる。体験活動。

- ・春日の森の再生事業(植生調査、植樹計画)に参加。
(再生事業責任者は地域学校協議員)
- ・藤野市九郎、高島幸太吉、村岡信一の3氏の業績調査。
- ・プレゼンソフトでまとめたり、劇を取り入れたりして
分かりやすく伝える方法を工夫する。

11月 グループごとに発表。体験活動を行う。

- ・学習発表会で学習の成果を地域の皆さんに伝える。
- ・春日の森の植生に合わせ、スダジイの苗木を植樹。シイ、コナラ、クヌギの実をプランターに植える。3年後の卒業時に、春日の森に植樹する予定。

2月 ゲストティーチャー(麻王伝兵衛氏)による授業

- ・麻王氏(地域学校協議員)が取り組む新たな農業の可能性や食の大切を学ぶ。



春日の森の植生調査

成果と課題

一連の活動を通じ、ふるさと本荘のすばらしさを身をもって体験するとともに、地域の方々と関わりながら活動できたことで、自然環境を大切に作る心や態度を育てることができた。また、郷土の良さを知ることの感動を味わうこともできた。しかし、人物の業績は文献や碑文に頼ることになり、児童が直接話を聞ける人材の発掘が課題である。また、児童自らが地域のために何ができるかを考えて、具体的に行動できる指導も必要である。